

たとえば

住宅の燃費

燃費の良い車と悪い車、どちらを選びます？

住宅にも燃費があります。設備の性能は日々進化しており、最新機器は昔のものに比べて、エネルギーの消費がどんどん少なくなってきました。どうせ替えるのであれば、使われるエネルギー等が少なくて済む方がお得ですね。

住まいも好燃費が良いに決まってる！

20年前の設備
断熱性能の低い住宅
(H4基準相当)

最新の設備
断熱性能の高い住宅
(HEAT20 G1相当)

暖房設備	54,501円	光熱水費の削減	暖房設備	17,932円
冷房設備	13,016円		冷房設備	13,431円
換気設備	12,678円		換気設備	12,678円
給湯設備	72,994円		給湯設備	44,672円
照明設備	37,855円		照明設備	13,492円
その他の設備	58,761円		その他の設備	58,761円
上下水道費	35,363円		上下水道費	19,934円

合計 285,168円/年

合計 180,900円/年

燃費の悪い住宅

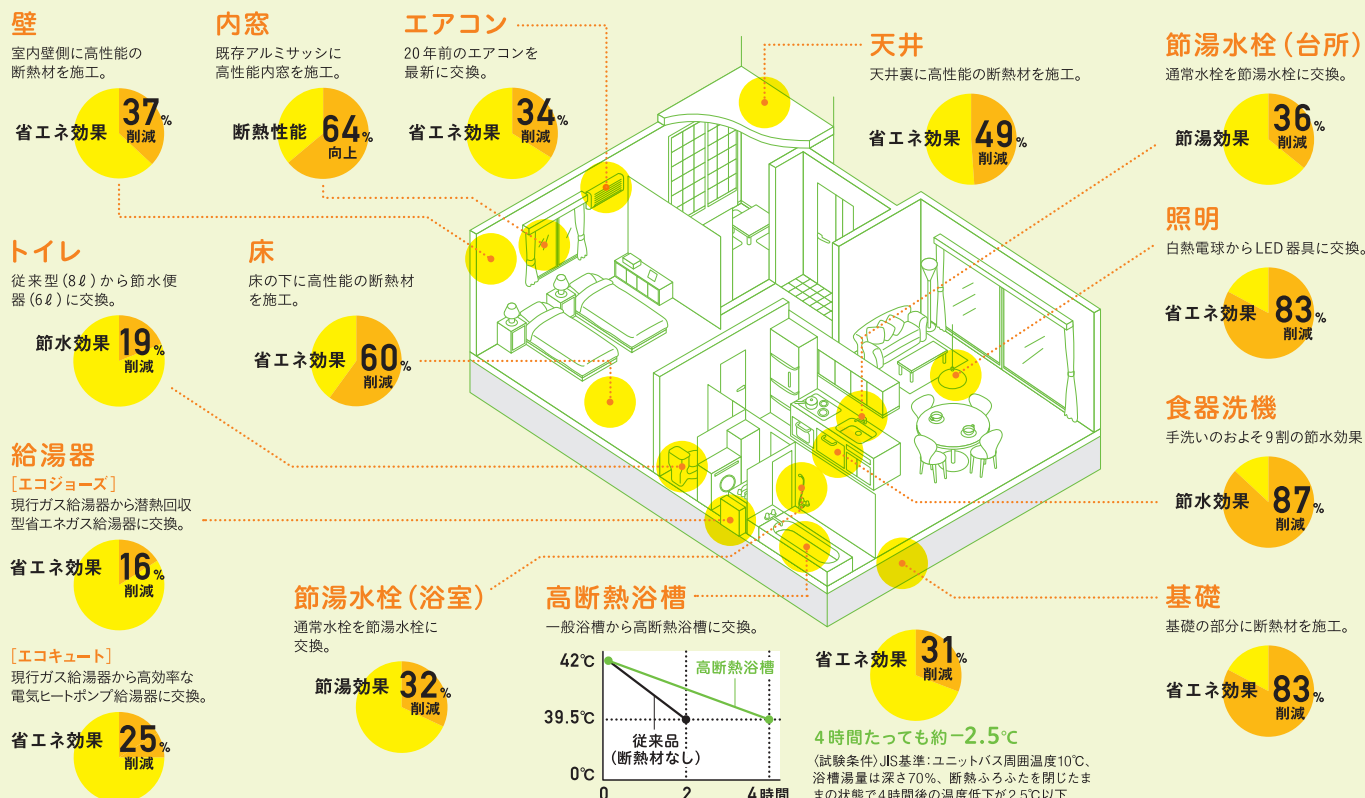
燃費の良い住宅

POINT!
最近の設備機器は、省エネ性能や節水性能が格段にアップしており、快適性が向上し、かつランニングコストを削減することが可能になります。まだ使えるのに取り替えるのは、“もったいない”ではなく、これからは、**大幅な節約ができる低燃費設備にリフォームしないことが“もったいない”時代になってきます。**まとめて施工すると工賃も節約可能。壊れる前にまとめてリフォームがお勧めです。

※地域6（岡山県岡山市）のデータ ※各設備に係るエネルギー量、上下水道使用量を金額に換算
※株式会社インテグラル 住宅性能診断士ホームズ君「省エネ診断エキスパート」すまいのエコナビにて算出
※設定温度等は国立研究開発法人建築研究所の「エネルギー消費性能計算プログラム」のデフォルト値を前提に算出

定期メンテナンス時がチャンス！

住宅を取得すると必ず必要になってくるメンテナンス。例えば20年目のメンテナンスで最新設備に替えると個別設備の性能は下記のとおりとなります。



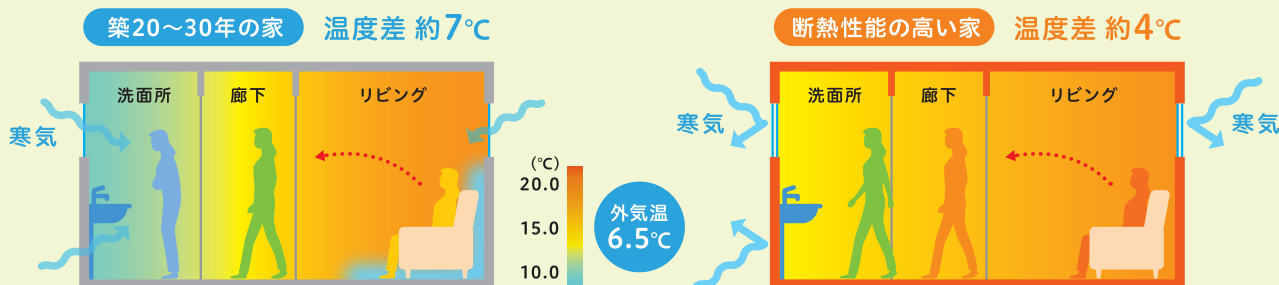
※このパンフレットに掲載したデータの計算根拠となる仕様については建産協のホームページで詳細をご覧ください。

<http://www.kensankyo.org/>

断熱リフォームは 快適・健康・安心に暮らすための第一歩

快適な住まい 室内の温度差を小さくすることがポイント

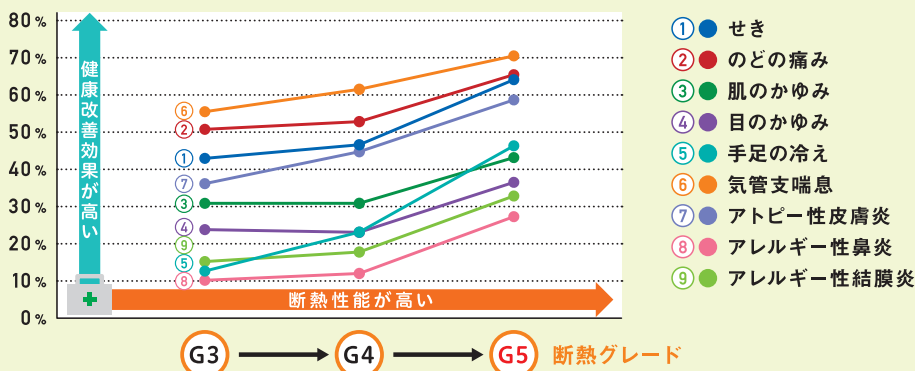
断熱性能の低い住宅では外部の気温の影響を受け、室内の温度差が発生しやすくなってしまいます。この室内の温度差が生活空間の快適さを阻害し、健康にも悪影響を与えます。断熱性能をリフォームによって改善することで、冷暖房の効きが良くなり省エネかつ快適で健康な暮らしを手に入れることができます。



参考) 2020年を見据えた住宅の高断熱化技術開発委員会 (HEAT20) を元に作成

健康に過ごす 改善するのは「冷え」だけじゃない

断熱性能が上がり、室内の温度差がなくなることによって改善するのは手足の冷えといった直接的な症状だけではありません。結露が発生しにくくなるため、病原菌やカビの発生を抑制できます。高断熱住宅に移り住んだ人へのアンケートでは、せきやのどの痛み、アレルギー症状が改善したと回答した人が増えたという調査結果が報告されています。

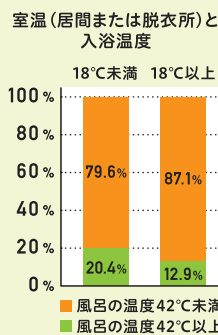
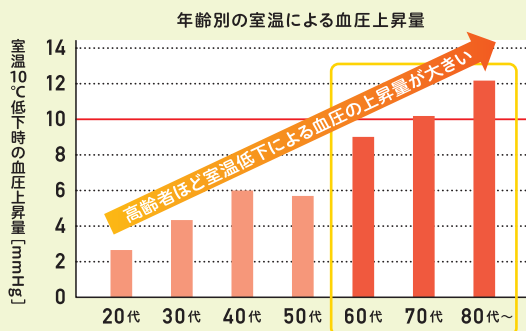


参考) 近畿大学 岩前教授 資料を元に作成

安心な生活 高齢者を冬場の危険から守る

冬場、優れた断熱性能を持つ住宅は部屋間の温度差が小さいので、部屋間移動時の血圧変動が少なく、浴室も寒くないので熱めの湯船での長湯を抑える、との調査結果が出ており、温度差に起因するヒートショックや熱中症の危険から高齢者を守ります。

高齢者ほど室温低下による血圧の上昇が大きいことが確認された。このため、室温が低くならないように注意する必要がある。



室温18℃未満だと18℃以上の場合に比べて、入浴事故リスクが高まるとされる42℃以上で入浴する人の比率が1.6倍になる。

参考) 国土交通省「住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する調査の中間報告(2017年1月)」を元に作成